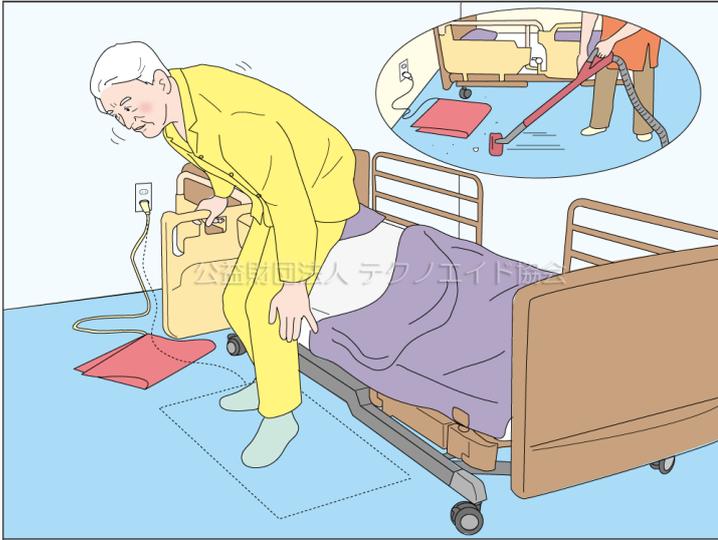


Case : 358

離床を感知できず、自力移乗で転倒しそうになった

場面の説明

センサーマットが定位置になかったため、離床を感知できず、介助レベルの利用者が自力で移乗し転倒しそうになる



利用シーン	 移乗
主な利用場所	 寝室
介護保険の種目	 認知症徘徊感知機器
分類コード (CCTA95)	215190 (徘徊老人監視システム)
介護テクノロジー	 見守り・コミュ（在宅）
二次元バーコード	

解説

コールボタンで介護職員を呼ぶことができないため、センサーマットで離床確認をしていました。誰かがセンサーマットを動かしたため、定位置になく、離床を感知できず、介助レベルの利用者が自力で移乗し転倒しそうになりました。定期的にセンサーマットの設置状況の確認が必要です。

参考要因（要因の例であり、これだけが正解ということではありません）

人：利用者がコールボタンで介護職員を呼べなかった
 モノ：誰かがセンサーマットを移動し、戻し忘れていた
 管理：センサーマットの設置状況の確認が必要

日付：	所属：	氏名：
-----	-----	-----

Case : 358

離床を感知できず、自力移乗で転倒しそうになった

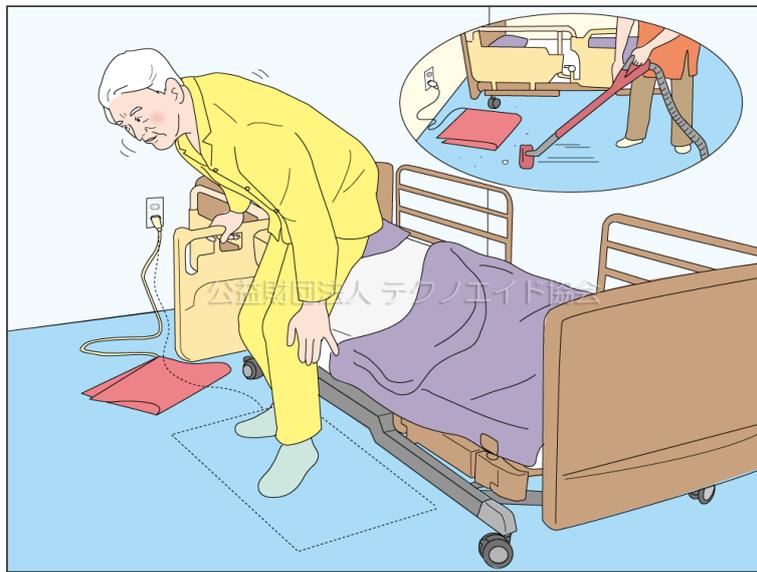
事例詳細



回答前に見ないこと

場面の説明

センサーマットが定位置になかったため、離床を感知できず、介助レベルの利用者が自力で移乗し転倒しそうになる



どのような要因が考えられますか？	どのような対策が必要でしょうか？
人（本人・介護者・関係者）の要因	
モノ（福祉用具）の要因	
環境の要因	
管理の要因	

メモ